

平成 24 年度事業報告書

特定非営利活動法人

高度情報通信推進協議会

当協議会は、平成 24 年度においてもユーザ側の視点に立った高度情報通信分野の施工技術・技能に関する人材育成及び情報提供を行うことを目的として事業を展開してまいりました。情報配線施工技能に関する職業能力評価制度のひとつである技能検定試験事業を積極的に推進するとともに、ユーザの立場に立ったワンストップ施工技術の普及を目指した情報ネットワーク施工プロフェッショナル認定（INIP）を通じた人材育成事業も強力に進めた。

I 人材育成・認定事業

(1) 技能検定事業

厚生労働大臣指定試験機関として、情報配線施工技能検定試験の公正かつ積極的な運営を行った。今年度技能検定試験は、厚生労働省の承認を得た計画に則って、1 級・2 級試験は 2 回開催（学科、実技試験時期は異なる）、3 級試験は年 3 回開催しました。技能士数は 1 級 8 名、2 級 40 名、3 級 221 名が新たに増加し、累積技能士総数は 2,407 名となった。

受検者増対策では、3 級は工業高校、専門学校などの教育機関への広報活動を更に強化し、情報配線施工の技能検定資格の定着化を目指し取り組んだ。また、企業内社員教育活動の一環として技能検定試験制度を活用して頂くための広報活動をベースに企業や賛助会員団体への協力関係を強化した。

平成 24 年 9 月 25 日から 27 日厚生労働省の定期立入検査があり、事業のあり方や業務改善等の有意義な指摘を受け今後の改善を行うこととした。

(2) INIP 認定事業

① INIP 認定

今年度末の認定者総数は 5,868 名となった。

② INIP 認定制度の見直し

認定者数推移が最近減少傾向にあるため、認定者にとってメリットのある制度への実現を目指し、制度運営の検討を開始した。

③ 認定者・受験者への情報提供及び普及啓蒙

認定者・受験者への情報提供及び普及・啓蒙を図るため、定期的な情報を提供した。認定者からの期待が大きく距離と時間の制約がない継続ポイント取得に期待が高まっているため、昨年 6 月 INIP ニュース第 7 号、今年 3 月第 8 号を発行した。また、4 月の情報通信配線技術フォーラム 2012 がトブックを号外として発行した。

II 普及・啓蒙事業

普及・啓蒙事業の一環として、より高度な施工技術に関する技能五輪等関連事業への支援活動を推進した。

(1) 情報通信配線技術フォーラム 2012

平成 24 年 4 月 11 日～13 日東京ビッグサイトで情報通信配線技術フォーラム 2012 を第 12 回光通信技術展（FOE2012）と共催で開催した。このフォーラムは第 50 回の技能五輪全国大会の予選会を兼ねており、24 名の選手を推薦した。

(2) 第 50 回技能五輪全国大会への活動支援

第 50 回技能五輪全国大会（10 月 16 日～19 日長野県開催）への参加選手推薦、及び競技用機材・部材の準備など技能五輪支援活動を積極的に推進した。

(3) 技能評価システム移転促進事業

中央職業能力開発協会主管の開発途上国への技能評価システム移転促進事業の協力委託を受け、（一社）情報通信エンジニアリング協会殿や会員企業（住友電工、フジクラ、パナソニック様）のご協力により 7 ヶ国（インドネシア、ベトナム、マレーシア、タイ、フィリピン、ラオス、カンボジア）の指導者・技術者に研修会を 8 月と 9 月の 2 回（合計 24 日間）開催した。また、昨年 11 月から今年の 2 月にかけて海外に講師を派遣し現地でのシステム移転事業研修会を開催した。このことは、情報配線施工技能検定制度の海外移転に寄与するものである。